

校長室だより

岸和田市立浜小学校 平成26年度11号

3月になりました。6年生はいよいよ卒業です。残り少なくなった浜小学校児童としての時間を大切に過ごしてほしいです。そして、気持ちよく巣立ってください。

1年生から5年生の人たちも、大きな区切りが近づいています。

締めくくり

「締めくくり」とは、「結末をつける」「まとまりをつける」という意味です。一年の締めくくりは12月ですが、学校の締めくくりは3月。子どもたちは、今、学年の結末をつけようとしています。

日頃、ついついできないことばかりが目につき、「〇〇しなさい!」「〇〇、まだしてないの!」という声かけが多くありませんか?学習面だけではなく生活面も含めて、「4月にはできなかったことができるようになった」「感じるができなかったことを感じ取れるようになったこと」を数えてみてください。どの子にもたくさんあるはずです。

たくさん見つけてたくさん褒めてあげてください。

「締めくくり」は、終わりではありません。未来へと続く次のステップに進むためのものです。子どもたちは(いえ、私たちおとなも)自分の未来を夢見ること、今を生きる力(がんばろうとする意欲)をもつことができます。この1年の次の1年、またその次の1年、そのまた次の1年・・・・それらの未来は、今年の上に重なっていきます。

さあ、しっかり締めくくって、次にすすみましょう。

未来へ
谷川俊太郎

道ばたのこのスミシが今日咲くまでに
どれだけの時が必要だったことだろう
この形この色この香りは計り知れぬ過去から来た

遠く地平へと続くこの道ができるまでに
どれだけのけものが人々が通ったことだろう
足元の土に無数の生と死が埋もれている

照りつけるこの太陽がいつか冷え切るまでに
目に見えないどんな力が働くのだろう
私たちもまたその力によって生まれてきた

人は限らないものを知ることにはできない
だが人はそれを生きることができ
限りある日々の彼方を見つめて

未だ来ないものを人は待ちながら創っていく
誰もきみに未来を贈ることはできない
何故ならきみが未来だから

「あなたの家族や友だちは大丈夫？」

2011年3月11日、私はスペインのバルセロナにいました。その日はバルセロナ日本人学校の卒業式でした。時差があるので現地時間午前6時46分に起こった地震のことを知らずに（その日の朝はテレビをつけなかったので）出勤し、学校で日本で大きな地震があったらしいと聞き、インターネットでそのニュースをみつけました。仙台から来ていた先生は家族と連絡がつかないと蒼白な顔で出勤。それでも卒業式は滞りなく終わることができました。卒業式が終わった頃からどんどん情報が入ってくるようになりました。現地のテレビでもずっと日本の映像が流れていました。その後1カ月ぐらいは、スペインの国営放送の右下にNHKのニュース画面が放送されていました。

知り合いのスペイン人は、もちろんのこと、たまたま入ったお店の店員さんも私が日本人だとわかると、「あなたの家族や友だちは大丈夫？」と心配してくれ、「大丈夫」と言うと、みんな自分のことのように喜んでくれました。

日本人学校と交流していた現地の中学校や小学校の子どもたちが書いてくれた応援メッセージカードの分厚い束を届けてくれた時には涙がこぼれそうになりました。スペインは日本からとても遠い国だと思っていたのに、心はこんなにも近くにあったんだと感じる瞬間でした。

その後、あちらこちらで義援金を集めるためのチャリティーイベントがたくさん行われました。スペインカタルーニャ地方の大切な祝日であるサンジョルディの日（4月23日）に世界遺産のサグラダファミリアに日の丸が掲げられ、東日本大震災で亡くなった方々の追悼式典が行われました。

私たちが、いつおこるかわからない災害に備えることと共に、今もまだ震災の被害を受け、厳しい生活を余儀なくされている方々に私たちができることは何なのかを子どもたちと一緒に考えていきましょう。（5日、6日は学校で募金活動を行っています） H27.3.5

